自然環境に配慮した道づくり

エコロードの推進

当社が推進している『エコロード』とは、「自然環境に配慮した道づくり」のことであり、日本道路公団設立当初より、のり面の緑化や既存林の保全など、自然環境の保全に向けた取り組みを行っています。

『エコロード』の取り組みの一つとして、自然環境が豊かな地域で道路を建設する場合は、その地域に自生する樹木の種子を採取して育てた「地域性苗木」を高速道路ののり面に植樹しています。地域性苗木は、地域の遺伝子を持つことから、「遺伝子の保全・種の保全・生態系の保全」という生物多様性の保全に寄与できると考えています。

2021年度末までに約16万本の地域性苗木を植栽しており、今後も、建設工事が進む新名神高速道路などで積極的に取り組んでいきます。

のり面における地域性苗木の成長の様子（新名神高速道路信楽IC付近）
①開通当初
②1～2年経過
③13年経過

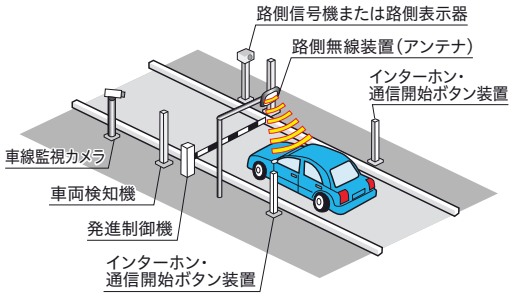
④地域性苗木の植栽パック（播磨道（播磨新宮IC～宍粟JCT））

環境方針・環境アクションプランについては、P.39～40に掲載しています。

スマートIC

スマートICは、高速道路の本線やSA・PA、バスストップから乗り降りができるように設置されたICです。通行可能な車両を、ETCを搭載した車両に限定しているため、簡易な料金所の設置で済み、従来のICに比べて低コストで導入できるなどのメリットがあります。

スマートICの整備により、市街地や観光地へのアクセスが向上し、高速道路が更に利用しやすくなります。 当社では、2004年12月に初めてスマートICが開通し、現在は36ヵ所のスマートICが開通済みです。また、12ヵ所で新たなスマートICの建設事業を進めています。



スマートIC設置情報

建設事業中スマートIC 12ヵ所（名称は仮称を含む）